

令和5年度

第2回

三鷹市健康福祉審議会 会議録（要旨）

1 日 時	令和5年8月22日(火) PM7:00~8:30
2 会 場	教育センター 大研修室
3 出席委員 (15人)	宇井義典(会長)、和田敏明(副会長) 小林義明、中柴和子、山本真実、嶋田正和、内原正勝、五島博樹、 星野博忠、竹内美佐子、吉野美枝、新津健朗、吉野勇、黒川晴美、 竹川健太郎
4 市側出席者 (13人)	小嶋義晃(健康福祉部長)、隠岐国博(健康福祉部調整担当部長)、 近藤さやか(保健医療担当部長)、嶋末和代(地域福祉課長)、 立仙由紀子(障がい者支援課長)、荻野るみ(障がい者相談支援担当課長)、 鈴木政徳(高齢者支援担当課長)、竹内康真(介護保険課長)、 川口真生(生活福祉課長)、小島美保(保健サービス担当課長)、 山口和昭(新型コロナウイルスワクチン接種担当課長)、 鈴木清一(価格高騰重点支援給付金事業推進室) 秋山慎一(子ども政策部長)、
5 会議の公開 ・非公開	公開
6 傍聴人数	0人
7 会議次第	1 会長あいさつ 2 報告事項 (1) 健康福祉総合計画の策定に向けて (2) 新型コロナウイルスワクチン接種事業について (3) 電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金給付事業について (4) その他 3 その他 4 令和5年度第3回三鷹市健康福祉審議会について (1) 日時 令和5年11月22日(水) 午後7時から(1時間から1時間半程度) (2) 場所 教育センター3階 大研修室
8 資料	[配付資料] (1) 令和5年度第2回三鷹市健康福祉審議会次第 (2) 令和5年度第2回三鷹市健康福祉審議会(席次表) (3) 新型コロナウイルスワクチンの接種状況について【資料3】 [事前送付資料] (1) 健康福祉総合計画の策定に向けた主な流れ(予定)【資料1-1】 (2) 令和5年度第2回三鷹市健康福祉審議会 意見票【資料1-2】 (3) 「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金給付事業」について【資料2】 (4) 令和5年度第1回三鷹市健康福祉審議会会議録(要旨)(案)

[開 会 (午後7時00分)]

1 会長あいさつ

省略

2 報告事項

(1) 健康福祉総合計画の策定に向けて

【健康福祉部長】

(事前送付資料(1)に沿って報告)

(質疑応答)

【会長】 健康福祉総合計画の策定に向けて、各委員からご意見をうかがいます。かなり長期的なビジョンなので、そのきっかけづくりを、今日はある程度述べてもらえればと思います。

まず、地域の問題、あるいは、今後の策定に当たっての意見をいただきたいと思っています。

【委員】 どこでも一緒だとは思いますが、私の住んでいる地域では、高齢者世帯が多く、単身者世帯もかなり多いです。数は把握していませんが、事故も多いところだと思っています。

また、それが進んでいくと空き家になります。自分の家の近くでも、何軒も空き家があり、そういうことも早めに考えなければならないと思っています。

【委員】 私の住んでいる地域も、高齢で、お一人でお住まいの方が増えていきます。先日、三鷹市から、お近くにお住まいの方に、幾ら連絡しても連絡がつかないので、ご存じですかと電話をいただきました。通りが1つ違うと、同じ町会であったとしても、なかなか挨拶する機会もなく、町会長さんに聞きましょうかみたいな返事しかできななかったので、私たち市民側も、周りを見渡して考えていく必要があると感じています。

【健康福祉部長】 高齢者世帯、単身世帯が増えていくと同時に、空き家も三鷹の中で非常に多くなっています。そうした中で、地域の中で孤立してしまう方も出てきています。私どもも、見守りネットワークという形で、何か気になるようなことがあればご連絡をいただく体制を整えています。やはり、周りの方におうかがいしてもなかなか分からないような状況もあり、地域のネットワークづくりはしっかりと取り組む必要があると感じています。

【会長】 引き続き、生活支援について、何かありますか。

【委員】 この間将来の人口予測が発表されましたが、どんどん人口が減っています。それから、一人世帯が一番多くなってきているということです。例えば10年、5年、目の前では今のような話を感じていますが、もっとすごいことになっていくと、非常に感じています。

あとは、環境、今回の水害で東京に被害はあまりなかったですが、異常な天候が続き、災害の問題も、今までの取組で本当にいいのかと感じています。

また、コロナで様々な問題が明らかになってきたと思いますので、地域共生社会を非常に強く言われ、この間の厚生労働白書もそれをテーマにしていました。我々、三鷹でも、そこをポイントに置きながら進めていく必要があると感じています。

【会長】 では、子育てに関してお話があればよろしくをお願いします。

【委員】 子ども・子育て支援計画も、アンケート調査を9月に実施するところで、前日の会議でも話があり、内容の検討をしているところです。その中では、コロナ禍の影響を子どもと家庭はとて大きく受けているので、働き方を含め、子どもたちの生活の様式や、ICTも含めた勉強のやり方、そういったところで経済格差も大きく影響を受けています。本当に大きな影響があったのかという意見もあったので、その辺の結果がアンケート調査などできちっと出てくるといいなと思いつながら、計画を立てていく形で考えています。

スケジュール的に言うと、個別計画策定の開始が来年度の7月になります。子ども・子育て支援計画も、今年度の9月に実施すると、アンケート調査が年内に出て、

大体の変更点や要点が2月、3月に出てくるため、実際には来年度になると思います。健康福祉総合計画との関係性もあるので、これまでの考え方ではなく、もっと大きなところの部分である家族の形や定義で変化が起これると、特に思います。

これまでの健康福祉政策の、公的などが負っている部分はもちろん、家族や親族といった地縁も含めた、インフォーマルな形での支援はすごく重要だったと思います。

今後も重要になるとは思いますが、これからは人口が減っていく中で、それを中心に考えていっていいのか、どこまでいけるかは十分に考えていかないといけないと思います。ぜひ健康福祉審議会という大きな枠組みの中で、大転換など、ビジョンが出てくれば良いかと、一委員として期待しています。

そうしないと、個別計画で大きなことを言っても、結局何もできないことになってしまうので、そこは意見として申し上げたいと思いました。

【会長】 人口構成も含めて、本当に大きく社会が変わって行って、家族の在り方も大分変わってきていると思いますが、何か策定に当たっての意見ありますか。

【委員】 私、三鷹に住んでもう30何年ぐらいになりますが、町内会がありません。私の実家は他県で、地区ごとに班ができていて、班長さんが、その地域を見守っています。

都会だと個人情報等の取扱いの問題で、情報を吸い上げるのは無理だと思いますが、これだけ高齢化が進んで、一人だけの家庭、空き家状態になっているなど、行政がそれに立ち入るかといったら、とてもできないと思います。だからこそ草の根運動の様な感じで、町内会みたいなものを機能させることができないかと思います。

【健康福祉部長】 今後より顕著になっていく人口減少社会の中で、この三鷹という土地、都市部の中での住宅街のまちで、どう地域の力をつけながら、行政として対応していくか非常に難しいと思っています。

また、この3年ほどのコロナの影響も、高齢者に限らない、様々な世代で、多くの問題が顕在化していくと考えています。単身高齢者、単身世帯が増えていく中で、先ほど自助の問題も出ましたが、地域のつながりをどう再構築していくか、しっか

りと取り組む必要があると考えています。

【会長】 テレビの話題ですが、中国では、地域の中で見守り社会をつくっていくということがありました。中国も単身の高齢者が増え、地域の中で見守っていく社会をつくっていかないと、日本の福祉に追いつけないから、それを代替していくということが話題になっていました。

先ほど、町内会がないというお話がありましたが、三鷹市内では続いているところもあると思います。ただ、場所によって、新しい世帯の方々の住む地区はない可能性もあります。

私の住んでいる地区は小さな町内会が昔からあり、未だに回覧板が回ってきて、ハンコを押して持っていくことをやっています。インターネットの時代に必要かと思いますが、回覧板を持っていくことで、ご近所と顔合わせをすることに意義があると思います。

では、ワクチンなど診療所の件も含めて、何かお話がありましたらお願いします。

【委員】 様々な議論のある中で、少子高齢化で、働く世代が相対的に減り、介護される人が増えるので、そうした場合に医療でできることには限界があります。

まずは、こちらの疾病予防の推進と書いてありますが、そちらでできることは、がん検診を充実させて、なるべく早期発見して、内視鏡ぐらいで手術できるがんを増やすということと、予防接種になります。

予防接種も、インフルエンザや、肺炎球菌、コロナなど、一定の効果が認められているので、接種率を少しでも高めるといえることが必要です。

特定健康診査は、高齢者の場合はどこまで疾病予防に結びつくかは分かりませんが、フレイル予防に関連した項目ができていますので、そういうものを介護予防と結びつけて、ハイリスクの人は行政が介入をすることが必要かなと思います。

あともう一つは、我々開業医はほとんどかかりつけ医ですが、かかりつけ医は、当然専門的な疾病を見ているわけです。高齢者の場合は、要支援の方や、要介護の方、その予備軍の方もいるので、介護職との垣根をなるべく低くして、ふだんから連携して、必要な方は早めに介護予防に結びつけていくことが必要です。

特に独居の方が非常に多いので、そういう方は、早めに地域包括に結びつけて、

何とか地域の中で自分らしい生活を続けていけるようにすることが大事かと思えます。疾病だけではなく、介護職と一緒に高齢者を診ていく意識づけが医師会全体として必要になると思います。

【会長】 次に、歯科行政について一言お願いします。

【委員】 我々歯科医師会は、行政の方々の協力を得ながら、様々な業務の内容を詰めています。まず基本的に我々が行政と一緒に仕事ができるのは健診業務になります。

この健診は、あくまでも基本的なお口の中の健診になるが、そこには大きな情報があります。例えばその方が独り暮らしなのか、どうなのか。いわゆる口の中の健診以外の生活状況などの部分も、ある程度健診をすることによって把握できることがまず第1点です。

それから、ここ最近、例えば高齢になると、オーラルフレイルのことなど、いろいろ言われているが、私たちからすると、オーラルフレイルは避けられないと思います。それを予防するというよりかは、オーラルフレイルが始まってからでは遅いため、その前の段階で手を打たなければなりません。

それらも含めて、各個人の健診業務に必要な内容をどのように入れ込んでいくかを、行政の方々と一緒に検討しています。

また、歯科の診療自体は基本的に1回では終わらないので、それなりの長い期間がかかります。その中でお互いに様々な話が出てきて、1回、2回の診療ではなかなか聞けないような、生活状況を聞かせていただくことで、その方がどういう生活をしているか、どういう環境に置かれているのか分かってくるようになります。

そのような情報の蓄積を各診療所でまとめて、どこかで情報共有ができればと考えています。

【会長】 では、薬事行政について何かありますか。

【委員】 以前に比べて、高齢者の数が確実に増えている状況の中で、今まで薬局に薬をもらいに来るというスタンダードの形が、徐々に我々が訪問して、薬の服

薬のサポートをする機会が非常に増えてきています。特に、ご夫婦で高齢者ですと、まだお互い異変に気づいたり、コミュニケーションをとれますが、最近では独居の方が増えてきて、異変に気づきにくい状況になってきています。

また、核家族化が進んでいる背景もあり、若い世代の人たちや親族、親戚が近くにいないケースが増えてきて、症状が進んだ高齢者をどういう形で今後サポートしていくか、そういった課題が見え始めてきているのが現状です。

また、薬を処方どおりしっかり飲むということも難しくなっているのが現状です。我々が患者さんのお宅にお邪魔すると、飲めていない薬が山のようにあります。そういう部分をまず改善しながら、薬を飲むことによって症状が落ち着くこともありますし、また、逆に、一歩間違えれば飲み過ぎてしまうことも十分考えられるので、今後取り組んでいくべき課題だと感じています。

【健康福祉部長】 私どもも、健康寿命を延ばしていきたい思いはあります。そうした中で、健診等を充実していく、早期発見、早期治療というところを目指しています。

ただ、一方で、高齢になれば介護が必要になったり、病気になったり、オーラルフレイルの問題、服薬の管理の問題、そうした加齢に伴って様々な問題が出てくると思うので、そういう状況であっても、その人らしい生活を送れるような地域にしていきたいと思っています。そのための指針となる計画をしっかりと考えていきたいと思っています。

【会長】 では、子育て、周産期、母乳の問題を中心に何かありますか。

【委員】 コロナ禍での問題が大きくクローズアップされてきています。核家族で、孤立化したり、ネット情報が多くて、なかなかほかのママたちとも会えず、サポートも受けられないということで、子育てが密室化されている方が多いと思います。病院でも早く退院しなければならないということで、国の施策で、産後ケアが見直しされています。

また、産後ケアを希望される方が1年間受けられる対策を考え出しているのですが、ぜひとも三鷹市でも産後ケアを希望される方が受けられるような取組を進めても

raitaiです。私たち助産師や専門職が関わり、丁寧な指導を1年間することにより、少子化対策につながりますし、もう一人産もうという気持ちも出てくると思います。助産師会としては、これからマンパワーを増やしていきながら、頑張っていきたいと思います。

さらに、小・中学生にも命の教育というのを始めています。自己肯定感や、命の大切さも伝えていくことで、その子どもたちが家庭を持って、子どもをつくるということにつながり、三鷹の少子化にも対応できると思いますので、頑張っていきたいと思います。

コロナで母乳外来をやっていない病院が増えていて、お母さんたちの一番の悩みが母乳になっています。やはり母乳が良いという意識が植え付けられていて、母乳が出ない私はお母さん失格、母乳があげられない自分はダメなど、すごく悩んでしまっています。そこに、助産師が介入してうまく軌道に乗せてあげると、うまく母乳が吸えた、授乳が長続きできたなどのサポートができ、それが専門職の役割だと思っているので、今後も頑張っていきたいと思います。

【会長】 続きまして、保育園からよろしく申し上げます。

【委員】 保育園だと、コロナ禍で長寿会の方たちとの交流が途絶えてしまい、残念に思っております。今年は何とかまた復活できたらと思っています。子どもたちも核家族が多いので、お年寄りの方たちと接すると、すごく喜ぶます。

以前、老人ホームを訪問し、高齢者の方が、日常踊っているダンスを披露したり、肩たたきをしたりしながら、交流を持っていたこともありました。そうすると、高齢者の方たちがすごい喜んでくださって、かわいい、かわいいと、笑顔がすごく出ていました。これからも高齢者の施設などと交流は続けていきたいと思います。

長寿会の方たちに一緒に遊んでいただいたり、ゲームを招待していただいたりして、子どもたちもすごく喜んでるので、もっと交流を深めていけたら、子どもたちもとても成長の糧になると思います。やはりおじいちゃん、おばあちゃんと同居している子どもたちというのは、とてもお年寄りに優しいです。高齢者と子どもが触れ合える機会が増えるといいなと思います。

【健康福祉部長】 私どもも、コロナ禍で孤立していると、子育て世帯や、高齢者等も、どうしてもスマホを見続けて、正しいホームページ等でないところから情報を得て、ますます不安になったりすることもあると思っています。

人と人の直接の交流、多世代交流が、どの世代にとっても非常にプラスの面が大きいと思っています。お話にもありましたとおり、世代を超えた交流や障がいがあるなしにかかわらない交流もしっかりと進めていく必要があると感じています。

【会長】 障がい者福祉の分野で、策定に関して何かご意見をお願いします。

【委員】 障がい分野ですと、障がい者施策の根幹となる障害者総合支援法が制定されてちょうど今年で10年目になります。これまでの10年は、様々な新設されたサービスだけではなく、様々な検討を重ねて、変化された既存のサービスなど、いろいろ変化した10年だったと思います。

それでも、人権的な国際法上でも権利条約の批准や差別解消法など、障がい者が人権的にも守られる、そういった環境にもなってきたと思います。

ただ、防災対策など感染症対策も含めて、やはり親亡き後や高齢化、重度化などの対応は、今後も非常に必要であることは、本当にひしひしと感じています。

今回、第三期障がい者（児）計画の策定に取り組んでいて、実態調査を踏まえた形で、様々な形で検討を重ねているところです。先ほど申し上げたような重度化、高齢化、また、親亡き後に関する取組だけでなく、それらを支える人財の確保などこれは障がいだけでなく、介護保険も含めてですが、本当に必要なところなので、目まぐるしく変容する障がい者施策だけでなく、この4つのところはマストと感じてるので、その点をぜひ皆さんと一緒に考えていけたらと感じています。

【会長】 では、続きまして、単身世帯の問題など、様々な話題が出ましたけれども老人クラブとしてよろしくをお願いします。

【委員】 お年寄の方々は、様々な職業を経験された方々がいて、すばらしい才能を持っています。決算書を作成するのにマクロを使ったり、80歳のおじいちゃんが決算書を簡単につくるようなシステムを、どんどん教えてもらってます。その方の

表情を見ると、まさに皆さんにお話しすること自体が自分の生きがいでもあり、みんなと信頼関係を持って頼られることに、すごい生き生きして、本当に若々しさを感じています。特殊能力を持った方たちを生かせる形で、また、その人たちが困っているところにお手伝いに行けることが重要です。

例えば一級建築士、大工さんもいます。そういう方々が子どもたちと一緒に鳥の巣や、テーブル、机などを作ったりすると、お年寄にとってはすごくうれしいことです。お互い元気を分かち合うことで生き生きしてきて、健康寿命はどんどん延びていくと思います。先ほど、お話があったように、私たちのお年寄の会でも、ハロウィンなどで、幼稚園や保育園に行くときは、大勢の方々がみんな行きたいと言います。

また、地域のお祭りなどで、お宮さんの境内で模擬店を出させてもらってます。おじいちゃん、おばあちゃんが、地域の人たちに本当に割安な金額で提供しています。私たちは、行列のできるだんご屋さんからだんごを仕入れてきて、それを皆さんに買っていただくことで、地域の人たちとつながることができてとてもうれしいです。お祭りなどをとおして地域の方々と触れ合い、喜ばれたり、頼られるたりすると、うれしいです。皆さんに気持ちよく買ってもらうための工夫をすること自体も、お年寄にはうれしいことです。様々な形で、何か地域に参加をしていく。地域の人たちの役に立ちたい。そういう場所をどんどん考え、また、市にもご協力をいただきながら、商工まつりなどに出演して、お年寄も、こんなに元気にやっていることをアピールしています。

地域の中で支え合っていくことはお年寄にとっては、健康寿命の大きな要素、生きがいにもなります。自分が今まで何十年間培ってきた力を、地域の人たちに還元していくことにより、お互い信頼関係もでき、また、人からも頼られ、生きがいを感じて、健康寿命を延ばしていける。そんな老人クラブでありたいと思っています。

【健康福祉部長】 非常に心強いお言葉、ありがとうございます。

介護保険ができて23年、障害者総合支援法ができて10年です。この間、障害者差別解消法や認知症基本法ができました。制度、法律は大分整ってきたと考えています。そうした制度、法律をいかに生かして地域をつくっていくかということが、私どもに求められている役割と思っています。そうした中で、この地域の在り方は、

お話がありましたが、高齢者に限らず、高齢者、障がい者、その一人ひとりに応じた地域で役割を担っていただく、そういった能力を引き出せるような場をつくっていく、そうした社会、皆さんがそれぞれの能力に応じて、役割を担って生き生きできる社会をつくっていきたい、そういう必要性があると感じています。

【会長】 では、民生・児童委員協議会の立場から、何かご提案がありましたら、よろしくをお願いします。

【委員】 私たち民生・児童委員も、このコロナ禍での活動は随分制限があつて、お年寄と相對することができませんでした。赤ちゃんの生まれたおうちにお伺いして、絵本を届けたり、民生委員が近所にいるので、もしものときは頼ってねという、顔をつなげる活動もできませんでした。

学校と私たち民生・児童委員と、市の子ども家庭支援センター、杉並児童相談所との連絡協議会も、何年も開けないまま来てしまいましたが、ようやくこの頃、少しずつ再開することになりました。社協の事業でほのぼのネット、お年寄に居場所をつくるサロンをやっていますがそこによく来てくれる保育園の皆さんも、高齢者は喜んでくださって最後に握手して帰ります。そういう活動ができなかったことで、高齢者がサロンに来て、お茶やお菓子も食べられませんが、おしゃべりする場所があることが、コロナ禍でのフレイル予防に少しはなつたと思います。どんな形であれ、本当に集まれない1年を除いては、工夫してサロンが開けたのは、良かったと思います。

それから、この健康福祉総合計画も4年ごとの改定や策定とのことですが、5年10年経つと、世の中すごく変わってきます。社会構造だけでなく、高齢者自体、私が年を取ったと同時に、元気だった方がお年寄になりました。そうすると、最初に抱いていたお年寄のイメージとは全然変わっています。そういうアップデートを、私たち自身していかないといけないと、最近すごく感じています。

この健康福祉総合計画も、大きな変革をして変えていかないと、時代に追いつかず後追いつきたいになってしまうと感じます。例えば生活困窮というのは、ヤングケアラーだったりした学生時代からのつらい生活がそのまま続いて、大人になったときに、初めて生きづらさにつながるということだと思います。

子育て支援も、子育てしている方に厚くというよりは、子どもを産みたいけれども、こんな世の中では、産めないと思っている方が多いから、出生率が増えないわけで、子どもが産まれた方への手厚い保護もすごく大事だけれども、もっと想像力を働かせて、その前の段階から、こうならないようにするという視点を持っていくことが必要だと思います。

【会長】 では、最後に、社会福祉協議会の立場から何か意見がありましたら、お願いします。

【委員】 様々な福祉の課題があると思うんですが、法律や制度で対応できる部分は、もちろん三鷹市も頑張って対応していると思います。

また、制度でない部分、インフォーマルな部分も、地域ケアネットワークなど、様々なネットワークを市も音頭をとって、住民参加の機会をつくっていると思います。

社会福祉協議会は、住民の皆さんと一緒に福祉課題を解決していこうという団体です。その視点からいうと、地域福祉の推進は、この計画の中にも地域ケアネットワークという記載があります。やはり、これから先5年、10年、この地域ケアネットワークをいかに発展させることができるかが、住民の皆さん方の支えを進めることができるのではと思っています。

そのときに、主体的に参加をして、他人事を自分事のように感じて、支え合いの活動に動いてくださるメンバー、市民をいかに増やすことができるか。これが、孤立の問題、様々な問題の解消につながると思っています。そういった点では、社会福祉協議会は、市に協力して一緒に取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

【健康福祉部長】 様々な制度が整ってきたことによって、制度の狭間で支援が届かない人が出てきているのは間違いない事実だと思います。

私どもも社会福祉協議会さんをお願いして、地域福祉コーディネーターを配置するなど、制度の狭間の方にもしっかりと支援ができるような形を整えてるところです。

これから、5年後、10年後を予測するのは難しい面もありますが、よりよい社会になるような形に、皆さんと一緒に考えていければと思います。

【会長】 皆さんから貴重な意見を伺いました。たくさん意見がありましたが、今まであまり話題になっていなかったような問題、高齢者単身世帯の問題、かかりつけ医の問題、それから、高齢者の活躍の場などもまた今後、議論をしていく必要があると思います。

今日は話が出ませんでした。ジェンダーレスの問題など他の課題も多いと思います。今日、たくさん種をまいていただいたので、市で整理をしていただき、上手に施策にまとめてもらえればと思います。またそれを議題にして、次の議論に発展できればと思います。

(2) 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

【健康推進課新型コロナウイルスワクチン接種担当課長】

(配布資料(3)に沿って報告)

【委員】 秋の接種について、対象者は初回接種を完了した全ての方ということですが、これは努力義務が課されているのは65歳以上で、65歳未満はあくまでも任意と聞いていますが、いかがでしょうか。

【健康推進課新型コロナウイルスワクチン接種担当課長】 努力義務が課せられるのは65歳以上の高齢者と、ハイリスクの方になりますので、その他の64歳以下の健康な方は、基本的には任意となり努力義務は課されていないという形になります。

また、努力義務があったとしても、受けないことによって罰則は、特段はありません。あくまでも自己判断となりますが、受けるように努力をしてくださいというように、国や市で協力を求めていくという形になります。

【委員】 接種券の発送は全員に送るのか65歳以上で、かつ、申請があった方にするのか、国から示されているのでしょうか。

【健康推進課新型コロナウイルスワクチン接種担当課長】 国からは、自治体の判断に任せることになっているため、市でどうするか検討しているので、分かり次第、すぐにお知らせいたします。

(3) 電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金給付事業について

【価格高騰重点支援給付金事業推進室長】

(事前送付資料 (3)に沿って報告)

【委員】 民生・児童委員にも7月に説明いただき、周知してくださいとのことですが、この(2)の自分で申請するほうの申出はどのぐらいありましたか。

【価格高騰重点支援給付金事業推進室長】 現在のところ、13件になります。昨年度も同様の事業を実施して、前は、今の同時期だと、大体80件程度の申請があったので、昨年度に比べると大幅に減っているという状況です。

【委員】 どうしたらもっと周知できるかを、民生・児童委員として考えています。

【価格高騰重点支援給付金事業推進室長】 経済の動向の影響もあると考えています。昨年度は、コロナ禍ということもあって、経済が動いてなかったのも、なかなか働き口がないなどが要因かと思います。今は5類になって、経済が動いているため、働く意欲のある方は職に就けて収入を得られているのではないかと感じています。周知が足りていないとは考えていません。

3 その他

(1) 次回の予定

令和5年度第3回健康福祉審議会は、令和5年11月22日(水)に開催予定

[閉 会 (午後8時30分)]